

日植防協発 第272号
平成30年11月5日

関 係 各 位

一般社団法人 日本植物防疫協会
理事長 上路雅子
(公 印 省 略)

シンポジウム「スマート農業時代の植物防疫を考える」の ご 案 内

日頃より当協会の事業に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当協会では、この度標記シンポジウムを別紙要領により開催することと致しました。

政府がすすめる科学技術政策、いわゆる **Society5.0** を背景に、農業分野においても **AI** 技術の応用をはじめとする新たな技術革新の試みが注目を集め、超省力化を標榜するスマート農業が現実のものとなりつつあります。これら取り組みの中には、病虫害の診断、予察、防除という植物防疫の中心的な分野に直接あるいは間接的に貢献しうると考えられるものも含まれ、今後の展開に関心が寄せられています。そこで本シンポジウムでは、急速にすすむこれら関連の取り組みを紹介し、未来の植物防疫を展望して参ります。

つきましては、ふるってご参加いただきますようご案内申し上げます。

追って、参加を希望されます場合には別添申込書により期日までに当方にお申し込み下さい。

※この開催案内は当協会ホームページ (<http://www.jppa.or.jp/>) からダウンロードできます。

シンポジウム「スマート農業時代の植物防疫を考える」

開催要領

1. 日時：平成31年1月22日（火） 10:00～17:30
2. 場所：日本教育会館「一ツ橋ホール」
東京都千代田区一ツ橋2-6-2 TEL 03（3230）2831
3. 主催：一般社団法人 日本植物防疫協会
4. 趣旨：政府がすすめる科学技術政策、いわゆる Society5.0 を背景に、農業分野においても AI 技術の応用をはじめとする新たな技術革新の試みが注目を集め、超省力化を標榜するスマート農業が現実のものとなりつつある。これら取り組みの中には、病害虫の診断、予察、防除という植物防疫の中心的な分野に直接あるいは間接的に貢献しうると考えられるものも含まれ、今後の展開に関心が寄せられている。そこで本シンポジウムでは、急速にすすむこれら関連の取り組みを紹介し、未来の植物防疫を展望する。
5. 参集範囲：国及び都道府県の行政・試験研究機関・普及指導機関、独立行政法人、大学、JA、農薬企業、防除機企業および関係団体（定員 800 名）
6. 参加費：無料
7. プログラム

開 会

- (1) 我が国におけるスマート農業への取り組み
農林水産省農林水産技術会議事務局 長峰 徹昭 氏
- (2) ICTを活用した防除機開発の取り組み
株式会社 丸山製作所 湯浅 一康 氏

— 昼 食 休 憩 —

- (3) 農業生産現場におけるマルチコプターの活用例
農研機構農業技術革新工学研究センター 吉田 隆延 氏
- (4) 気象データを利用した病害虫発生予察
三重県農業研究所 西野 実 氏

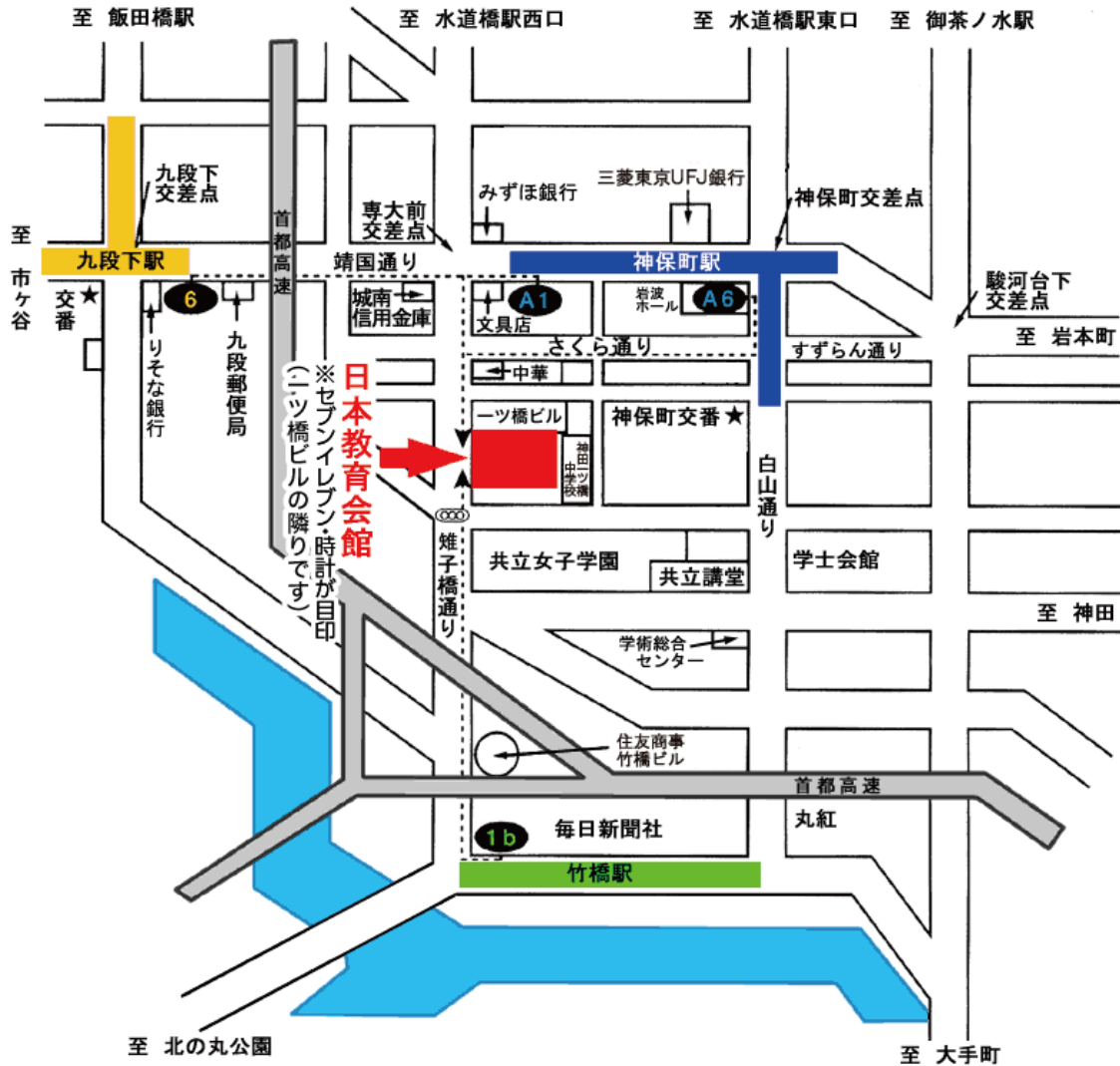
— 休 憩 —

- (5) 画像解析を利用した病害虫の同定
農研機構農業環境変動研究センター 岩崎 亘典 氏
- (6) センサーと AI を活用した病害予測
ボッシュ株式会社 盛 朝子 氏
- (7) 総合討論

閉 会

会場案内

日本教育会館「一ツ橋ホール」 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 Tel. 03(3230) 2831
 (道案内専用電話 03-3230-2833)



- 都営新宿線、都営三田線、東京メトロ半蔵門線神保町駅（A1出口）から徒歩3分
- 東京メトロ東西線竹橋駅（北の丸公園側出口）から徒歩5分
- 東京メトロ東西線九段下駅（6番出口）から徒歩7分
- JR 総武線水道橋駅（西口出口）から徒歩15分

シンポジウム「スマート農業時代の植物防疫を考える」 参加申込書

12月28日〆切（期日前でも定員になり次第締め切らせていただきます。）

■一般社団法人日本植物防疫協会 支援事業部あて
FAX 03-5980-6753

所属機関名	ご氏名	備考

必ずしも所属機関や県単位でまとめてお申し込みいただく必要はありません。
万一定員超過により申込をお受けできない場合は折り返しご連絡致します。

申し込み代表者

所 属

氏 名

TEL